

令和元年度（2019年度）第1回すいたの年輪ネット議事録

1 開催日時

令和元年7月1日（月）午後2時から午後4時まで

2 開催場所

千里山コミュニティセンター多目的ホール

3 出席委員

新崎 国広 委員（大阪教育大学教育学部教育協働学科 教授）

古田 利佳 委員（公益社団法人 吹田市シルバー人材センター）

藤井 紀高 委員（株式会社ダスキン ライフケア吹田ステーション）

中谷 恵子 委員（吹田市ボランティア連絡会 副会長）

美馬 美知紅 委員

（特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブナルク吹田(友遊悠)顧問）

半崎 智恵美 委員（NPO 法人 市民ネットすいた 理事）

藤原 俊介 委員（吹田市人権啓発推進協議会 会長）

岸下 富盛 委員（吹田市高齢クラブ連合会 会長）

金戸 省三 委員（社会福祉法人吹田市社会福祉協議会 会長）

富士野 香織 委員

（吹田市介護保険事業者連絡会 訪問介護事業者部会 部会長）

新宅 太郎 委員

（社会福祉法人吹田市社会福祉協議会 地域福祉課主幹・広域型生活支援コーディネーター）

田口 武志 委員（市民委員）

由井 昌代 委員（市民委員）

中野 和代 委員

（社会福祉法人吹田市社会福祉協議会 地域福祉課係長（コミュニティソーシャルワーカー））

椎名 友規子 委員

（吹田市佐竹台・高野台地域包括支援センター センター長）

森田 明子 委員（吹田市福祉部高齢福祉室長）

4 欠席委員

宮本 修 委員（吹田市民生・児童委員協議会 副会長）

山本 清美 委員

（吹田市介護保険事業者連絡会 居宅介護事業者部会 実行委員）

5 会議案件

- (1) これからの高齢者生活支援体制整備事業について
- (2) 広域型生活支援コーディネーターの主な活動について
- (3) 地域ケア会議について（平成 30 年度報告/平成 31 年度取組）
- (4) 地域元気アップ講座の報告
- (5) 助け愛隊ボランティア養成講座、助け愛隊活動の報告
- (6) 各地域での高齢者生活支援に関する取り組みについて

事務局：

傍聴者は 2 名です。5 名以内ですので、全員の方に入室していただきます。

【後藤福祉部長挨拶（他の公務による欠席のため、森田高齢福祉室長代読）】

【資料の確認】

【開会】

【委員長挨拶】

令和になって 1 か月が経ち、2019 年も後半戦に入りました。昨日までは大阪サミットもあり、慌ただしい日々を過ごされていたのではないのでしょうか。先日は、この会場の近くで警察官が襲撃されるという事件があり、いち早く情報を公開したことで被害を拡大させることなく逮捕するに至ったということは地域の方も働いたのではないかと思います。警察官へのお見舞いを地域の方がされているという話も聞き、安全・安心も地域と密接に関わっていると感じました。さて、地域づくりは住民主体ということで、すいたの年輪ネットでは 4 年間丁寧に時間を掛けて取り組んできました。今回、一定の成果を報告してもらおうとともに、それらを踏まえて委員の皆さんと議論を重ねていきたいと思います。

【案件（1）これからの高齢者生活支援体制整備事業について】

事務局：

（資料 1 の説明）

委員長：

この 4 年間、改善と継続の PDCA に取り組みました。委員で企画、検討を行い、実際に取り組み、必要に応じて変更していくというかたちで 4 年間進めてきました。

【案件（2）広域型生活支援コーディネーターの主な活動について】

委員長職務代理者：

（資料2の説明）

K委員：

助け愛隊のボランティアの方の個人情報の取り扱いについてはどうなっていますか。また、マッチングについてどのように心掛けているのでしょうか。

委員長職務代理者：

個人情報の取り扱いについては、契約書や申し合わせ事項を交わしたりすることも考えましたが、御近所で助け合うことにおいて契約や申し合わせ事項が必要なのかと思い、また、助け愛隊がすいたの年輪ネットから生まれた取組であり、その主体となる社会福祉協議会の他のボランティア活動を参考の上、なしと判断しました。今後、必要であればすいたの年輪ネット内で検討してもよいと考えています。マッチングについては吹田市社会福祉協議会の上部団体である大阪府社会福祉協議会のマッピングシステムを利用しています。そのシステムに依頼者や助け愛隊員の住所を落とし込んで各々の位置情報が見える化することで、依頼者からなるべく近いところに住む隊員をマッチングすることができています。もちろん、このシステムは外部とは繋がっていません。

G委員：

助け愛隊は新しい取組であるため、委託型地域包括支援センターの仕様書には助け愛隊の活動については記載されていないと思いますが、どのように関わってもらっているのでしょうか。

委員長職務代理者：

今年の4月より、市内の地域包括支援センターは全て委託型となりました。助け愛隊の活動については全ての地域包括支援センターに説明して理解を得ています。助け愛隊の活動は地域の困りごとの全てをフォローするものではなく、あくまでも助け合いボランティアの1つです。よって、専門職の介入が必要な方については地域包括支援センターやCSWに繋ぐこともあると伝えていきます。地域包括支援センターに新たに何かをお願いするというよりは、従来からの業務内容と変わらず、支援の必要な高齢者の情報を把握する新たな機会ということで理解をしてもらっています。

G委員：

地区福祉委員会への周知はしていますか。

委員長職務代理者：

地区福祉委員長会議を通して周知を図りました。また、地区福祉委員会はふれあい昼食会を開催しており、多くの昼食会での出席者は75歳以上の独居の方々であるため、多数の地区福祉委員長から昼食会の際に広報して欲しいという声がありました。

H 委員：

豊一地区の豊寿会（単位高齢クラブの名称）通信には会員同士のお手伝い活動というものが掲載されているが、助け愛隊との関係はどうなっているのでしょうか。

委員長職務代理者：

豊一地区での数年間の議論の結果、このような助け合い活動が生まれました。助け愛隊を参考にされているところもあります。助け愛隊はオール吹田での取組ですので、どうしても遠方からの訪問ということもあるかと思います。近い方が気安く助け合える、遠い方が気兼ねなく助け合える等、色々な形があるかと思いますので、地域でこういった取組が生まれるのはとてもいいことだと思います。それぞれを上手く利用してもらえればと思います。ただ、できるだけ地域のことは地域で考えてもらえるように、一緒に取り組んでいきたいと思っています。

H 委員：

7月の吹高連の理事会で助け愛隊のことを取り上げようと思っています。吹高連が全体としてお互いの助け合いの活動に取り組んでいくということになれば、助け愛隊と並行して考えていきたいと思っています。

委員長職務代理者：

地域でそういった取組が広まるのはいいことだと思います。

I 委員：

吹田市社会福祉協議会の第三次地域福祉活動計画は折り返しの時期であり、吹田市社会福祉協議会では二つの方向性を打ち出していたうち、鍵の預かり事業は進んでいっているため、もう一つの高齢者の生活支援について取り組もうと考えました。当初は地区福祉委員会として進めていこうと思っていましたが、高齢クラブの方で元気な高齢者が高齢者を助けるという話が積極的に進んでいきました。現状では高齢クラブの会員のみの活動であるため、地区福祉委員会がどれだけ潤滑油のような役目が入っていけるのが課題になっています。依頼は10件程度あるかと思っていましたが、実際には2件でした。植木の片付けの依頼がありましたが、派遣できる人が見つかるまでに、ある程度依頼者の方で片付けてしまっていたため、今後はマッチングをもっと上手くできるよう

に考えていきたいと思います。今後も話し合っていきますが、今のところは高齢クラブに運用を任しているということになっています。

委員長：

東大阪市では地域包括支援センターが2層のコーディネーターを担ったのですが、地域活動を従前より行っていたところとそうでないところとで活動内容に非常にばらつきがあるということで、全体的な調整が必要になっています。オール吹田で同時期にスタートしたという意味では助け愛隊の周知は非常に重要になってくるし、助け愛隊での対応が難しい方には地域包括支援センターに繋ぐというような仕組み作りはすごくいいと思います。また、地域によって高齢クラブや地区福祉委員会が情報を発信できている、多様な主体形成ができていていると思います。地域での取組は助け愛隊と競合するものではないという確認はできていますので、これからもそれぞれで進めていければいいと思います。活動の始まりの時には色々なところで質問や疑問が出されると思いますが、その度に丁寧に話し合うことで、よりよい事業にしていくことがとても重要であると感じました。

【案件（3）地域ケア会議について（平成30年度報告/平成31年度取組）】

N委員：

（資料3の説明）

委員長：

地域ケア会議は事例検討や学習会を通して地域の方々や専門職といった多職種が連携・協働し、ネットワークを作っていく会議です。すいたの年輪ネットとの整合性や違いといったことがポイントとなるのでしょうか。

委員長職務代理者：

2層の地域型の協議体をつくるようになった場合に、地域で多様な団体が集まっていると、例えば、この地域ケア会議が挙げられます。従来は個別支援について話し合うことが多かったのですが、次第に地域での関わりをどのようにつくっていくのか、という話し合いになる流れができつつあります。そういった中で、2層の協議体と地域ケア会議がどのようにして融合できるのかということ今年度は重視していきたいと思っています。

委員長：

地域ケア会議とすいたの年輪ネットが対立するということではなく、お互いに協働していくという発想の中で進んでいるという報告だったと思います。

委員長職務代理者：

委員の中で、地域ケア会議に出席したことのある方はおられますか。

M 委員：

地域ケア会議が始まった平成 14 年度は介護保険制度が開始してすぐのことでした。よって、当初は介護保険サービスの周知や、介護保険サービスをどのように利用していくのかということを出席者に理解してもらうことに重点を置きつつ、ケアマネジャーから提供された個別ケースの検討であったと記憶しています。しかし、最近出席する中では、介護保険サービスだけでは支えきれないような家族の問題や複合的な問題を抱えたケースが出てきます。そういったケースに対応するにあたって、どのような地域の助けであったり、CSW も含めた地域でのフォローが必要であったりするのかなという話し合いにシフトチェンジしてきていると感じています。ブロックによっては今一度、CSW の活動内容を説明するところも出てきています。地区福祉委員会の説明をしたブロックもあり、出席者からは地域のことがよく分かったという感想もいただいているので、地域ケア会議はすいたの年輪ネットと全く別物の会議ではなく、一緒に考えていくことのできる会議であると感じています。

委員長：

まさに今、8050 問題という言葉をよく聞きます。メディアでもよく目にします。高齢者だけの問題ではなく複合的な問題を抱えているケースが存在しています。すいたの年輪ネットは高齢者の生活支援を考える会議ですが、地域でそういった問題について関心を持っていくという取組を、高齢者という切り口から進めていく。すなわち、今後は地域ケア会議も高齢者だけでなく、色々な課題を複合的に考えていくというかたちが必要になってくると思われます。だからこそ、この二つの会議が協働することの意味が大切だという意見をいただきました。

【案件（4）地域元気アップ講座の報告】

委員長職務代理者：

（資料の説明）

委員長：

55 名中 17 名が継続参加希望というのは高い率だと思います。当日お手伝いされた方の御意見を聴かせてもらえませんかでしょうか。

L 委員：

私がついたテーブルの参加者はほとんどがボランティア経験者でした。お一人だけ未

経験の方がおられたのですが、色々と興味を持たれ、すぐにボランティアセンターに申し込まれていました。そういった方が増えていけばいいなと思います。

D 委員：

私がついたテーブルの参加者はほとんどが男性でした。退職されたばかりの方がおられ、何かをしたいという意欲がおありでした。浜屋敷や内本町方面でのボランティアの紹介をさせていただきました。他の方にはボランティアグループを紹介しました。いずれもボランティアに行かれて活動されたと聞いています。ただ、その後継続されているかどうかについては分かりません。時間があるから土日以外は何でもしたいと言われていたのが印象的でした。退職された方がまたおられれば、上手く活動に繋げていくことができればいいなと思いました。

K 委員：

まずは実際に活動されている方の話を聞くという機会がすごくよかったと思います。いきなりどこかに行くということは勇気がいることなので、このような顔を合わせられる機会はよかったと思います。また、元々ボランティアへの意識の高い方が多かったので、これからはあまり関心のなかった方にどれだけ来てもらえるかが大事かと思います。例えば、川の清掃をしたり、災害時の避難場所を教えたり、高齢者宅への訪問をしたり等、単発のボランティアもあればもっとハードルも下がると思います。

F 委員：

ラコルタにもボランティアの方がたくさん来られました。また、この機会にラコルタを知っていただけた方も多かったです。ボランティアと聞くとどこかに属さないといけないと思っている方もおられましたが、一人でも切手収集ができる等、「プチボラ」ということも知ってもらえました。今すぐ何かをするわけではなく、情報が得られただけでもよかったというお声も聞いています。ラコルタは千里ニュータウンプラザの6階にありますが、高齢者にとっては5階の高齢者フロア（地域包括支援センター、高齢者生きがい活動センター）までしか知らない方も多いので、良い機会だったと思います。

委員長：

ボランティアをされておられる方も、ボランティア活動の意義とか目的を改めて再認識することによって、活動意欲を高めたり、仲間の輪を広げられたりするというところにも繋がってくるのかと思いました。実際に活動者の話を聞く、それから具体的な活動の紹介をする。この段階で終わる講座が多いのですが、ここからグループワークをすることで自分達の思いを共有したり、不安を軽減したり、仲間をつくったりすることができるので、素敵なプログラムだと思いました。

これは雑談と思って聞いてください。ボランティア活動や生涯学習のお手伝いをして
いるのですが、今後、高齢者や地域の方々の地域活動や生涯学習には「きょうよう」と
「きょういく」と「きょうどう」という3つのキーワードが必要になってきます。「き
ょうよう」は今日、用があるところを探していくこと。「きょういく」は、今日行くと
ころがあること。つまり、居場所づくりのこと。「きょうどう」は、今日どうする？と
いう仲間がいること。地域元気アップ講座は、この3つのキーワードを取り入れられた
プログラムなのではないかと思いました。

委員長職務代理者：

今回、ボランティアに取り組んでそのまま活動を継続された方もおられます。色々な
活動があるということを知ってもらうこともできました。受講者がその後どうされたか
という後追いについては、CSWを通して全員に連絡をさせていただきました。次のボラ
ンティアのことは考えていません、という方もおられれば、今もボランティアを続けて
おり、楽しく充実した日々を送っていますという方もおられました。

委員長：

今回、初めての取組でしたので、これが地域に広がっていけばいいなと思いました。

【案件（5）助け愛隊ボランティア養成講座、助け愛隊活動の報告】

委員長職務代理者：

（資料の説明）

G 委員：

私の担当する地域の利用者数はあまり少ないと思います。まだ判断するのは早いです
が、利用者とボランティアのバランスの検証をどこかでした方がいいのかと思います。
利用者があまりに多過ぎると待たせてばかりになるし、逆にボランティアが多過ぎると
手持無沙汰になってしまう。そのあたりの検証がどこかで必要になってくると思うので
すが、いつ頃されるのか考えておられるのでしょうか。

委員長職務代理者：

いつ頃がいいのでしょうか。まだ事業がスタートした直後のことなのでしばらくは活
動の実態を把握したいと思います。民生委員の方々に助け愛隊のチラシの配布をお願い
しているので、これから一段と数も伸びてくるかもしれません。

G 委員：

シーズンのなものも考えられます。庭の掃除であれば1年後にリピーターも出てくる

でしょう。

H 委員：

吹三地区ではまだ助け愛隊の利用については聞いていません。ちなみに、吹三地区では「なんでもやろう会」という活動があります。

(なんでもやろう会：高齢者が生きがいを持ちながら過ごせることを目的とし、世代間交流や高齢者への簡単な手助け、公園の清掃等を行う団体)

I 委員：

地区福祉委員長会議の際に助け愛隊の説明を行いました。地区福祉委員会は 33 地区あり、全地区の足並みが揃っているわけではないため、同じテーブルで話し合っていくことが難しいのではないかとという危惧はあります。先頭を切って模範的にどこかの地区で行って欲しいと思っています。

委員長職務代理者：

助け愛隊に関する反響や数字の大小は尺度がないので分かりませんが、千里ニュータウン地域からの依頼が比較的多く、依頼の半数近くを占めています。後は山田や豊津等各地から依頼があります。大型家具の搬出の依頼で結局キャンセルされた方は、明日の大型ごみの日に出して欲しいという依頼であったため、調整が難しいということでキャンセルとなりました。よろしければ 1 か月後の大型ごみの日に合わせて調整しましょうかと伝えたところ、近所の人に助けていただけることになったというお返事でしたので、安心して終話となりました。各地区で助け愛隊の活動が広がればいいと思いますが、これだけが生活支援ではなくて、集いの場をどう増やしていくか、集いの場までの移動手段をどうしていくのかというような高齢者のサポート等、色々な観点から高齢者の生活支援を考えて、地域のまちづくりの一環として取り組んでいきたいと思っています。

G 委員：

助け愛隊のチラシは自治会連合協議会で説明してもらいましたが、単一自治会にも配布しているのですか。

委員長職務代理者：

単一自治会には配布していません。75 歳以上ということで民生委員の方々に配布していただいています。

G 委員：

自治会の加入率は 80~30%と高低がありますが、単一自治会に送っていただければ

掲示板や回覧板等の方法により、市報以上に周知できる効果があります。

H 委員：

吹三地区では敬老会の案内の際に、助け愛隊のチラシを配布する予定です。

委員長職務代理者

各地区でどのような配り方が適切なのかが異なってくるため、それぞれに効果的な配り方をしていただければと思います。

委員長：

効果的な配り方を逆に教えていただければ、この会議でフィードバックができると思います。

G 委員：

地区福祉委員会や高齢クラブという括りではなく、単一自治会単位で配れば概ね網羅できると思います。

I 委員：

現状、75 歳以上の情報を把握しているのは民生委員であるため、まずは民生委員に周知をお願いしたいと思います。

G 委員：

全ての民生委員が同じ足並みで動いてくれればいいのですが。

【案件（6）各地域での高齢者生活支援に関する取り組みについて】

委員長職務代理者：

（資料の説明）

委員長職務代理者：

資料にない地区でも、地域包括支援センターと相談し始めているところはいくつかあります。

委員長：

この事業は一律にトップダウンで下ろしていくのではなく、それぞれの地域の特性を活かして、少しずつ主体形成していきながら事業に繋げていく。社会福祉協議会がこだわるところのコミュニティワークです。先駆的な取組を紹介しながら広げていくという

かたちで関わっていきたいということは今までの 4 年間の合意形成で共有することができていると思っています。

委員長職務代理者：

資料はないですが、今後の取組のために進めている準備としてみなさんに 2 点ほどお伝えしたいことがあります。昨年度の第 2 回すいたの年輪ネットの際に、高齢者がよく行く場所はどこか、また、よく行く場所を定期的に参加する場所、生活支援情報等を手に入れられる場所にするにはどのような取組が必要か、というテーマでグループ討議をしたと思います。その時は、高齢者はよくスーパーやフードコートに行っておられるので、そのようなところに掲示板を置いてはどうか等の御意見が出ていました。そういった高齢者の生活支援について、今現在の取組の進捗状況を報告します。

一つ目は関西スーパーの取組についてです。なぜ関西スーパーかと言いますと、関西スーパー佐井寺店が「とくし丸」という移動販売車を運行されています。その担当の方と、とくし丸の開設前に関わったことがありまして、先日、その方とまた情報交換する機会があったことがきっかけです。何ができるのかは未定ですが、7 月 10 日に関西スーパーの本社に赴いて、具体的に何ができるのかという話をしてくる予定です。

二つ目は集いの場リストの更新についてです。このリストは平成 29 年に市内 200 か所のサロン活動等を掲載して作成したものであり、そろそろメンテナンスが必要な時期に来ています。更新の作業にはすいたの年輪ネットの委員からも協力者を募りたいと思います。個別に声掛けいたしますので、その時はよろしくをお願いします。

委員長：

とくし丸は軽自動車での移動販売ということですが、どこか懐かしい感じがします。かつて、移動販売の軽三輪がまちを走っていたことを思い出します。

何か、本日の会議の全般的なことで御意見や御感想はございませんでしょうか。

K 委員：

民間の事業者や企業が地域の高齢者の生活支援に対して何かをするという仕組みがあればいいと思うのですが、そういうことは検討されていないのでしょうか。

委員長：

企業等に幅広く協働を呼びかけていくということですね。そういうことであれば、C 委員いかがでしょうか。

C 委員：

ダスキンとしては、毎月第二金曜日に認知症カフェを開いています。来られる方はま

だあまりいませんが、地域にお住いの認知症の方や御家族の方に来ていただいて、お話をさせていただき、不安を取り除いていけるように取り組んでいます。

委員長：

ありがとうございます。そういう取組の周知は社会福祉協議会に言ってもらえれば広報誌に載せてもらえる等もできるでしょう。他にありませんか。

委員長職務代理者：

K 委員が先ほど言われていた企業との連携という点において、企業からのゲストスピーカーというような関わり方も含まれるでしょうか。

K 委員：

それも含まれると思います。例えば、体脂肪や筋肉量の測定会等も入ると思います。最近では SDGs (※1) という考え方が企業に広がってきています。企業として、また、組織体としてどのように地域と関わっていくのか、どのように継続的な貢献をしていくのか、ということを考えていく時代に入ってきています。

(※1 SDGs (エス・ディー・ジーズ)：「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称。SDGs は 2015 年 9 月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟 193 か国が 2016 年から 2030 年の 15 年間で達成するために掲げた目標。17 の大きな目標と、それらを達成するための具体的な 169 のターゲットで構成されている。)

委員長：

SDGs とは、持続可能な開発のゴールということですね。

K 委員：

はい。そういったニーズを持たれている事業所も結構あるのではないかなと思います。

委員長職務代理者：

地区福祉委員会やサロンにおいて、そういった民間企業に入ってきてもらうというのはどうでしょうか。

I 委員：

民間企業が入ってくれば行事の幅が広がると思います。

委員長：

防犯や特殊詐欺においては警察署員が来られて講話をされるとサロンの参加者が増

えると聞きます。防犯や防災もサロンの行事の切り口としては有効かと思います。

委員長職務代理者：

以前、あるサロンで面白いと思った取組は、いきいきサロンに某化粧品会社の方が来られて化粧の仕方の紹介をされていました。これも企業のCSR（※2）だと思われます。

（※2 CSR：企業の社会的責任。企業が自主的に社会に貢献していく責任のこと。）

委員長：

日赤ビューティー奉仕団というものもあります。そういう幅広い視点も面白いですね。

委員長職務代理者：

シルバー人材センターからは助け愛隊活動に関して何か問い合わせはありませんか。

B 委員：

今のところ特にありません。

委員長職務代理者：

助け愛隊の依頼内容に合致しない方に、シルバー人材センターを紹介することが今後あるかもしれませんので、よろしくお願いします。

委員長：

それでは、本日の案件が全て終了しましたので、事務局からお願いします。

事務局：

次回、第2回すいたの年輪ネットは9月頃の開催を予定しておりますので、委員の皆様には8月頃に御案内いたします。宜しくお願い致します。本日はお忙しい中、お越しいただきましてありがとうございました。